

平成28年度市町村教育委員会アクションプラン・計画等概要

(竹田教育事務所)

No. 1

市町村名	プラン・計画等	目標		行動計画	H28達成指標
		目標	目標		
竹田市	学力向上アクションプラン	<p>1 「大分県学力定着状況調査」「全国学力・学習状況調査」で県平均を超える学校を増やす。</p> <p>2 生活習慣の陥没項目の改善 ○テレビ視聴→4時間以上 10%(小中ともに) ○学習時間→30分以下 (小5%, 中3%)</p> <p>3 協調学習ジグソー法の推進</p> <p>4 校内研究を充実させ、授業改善を図る</p>	<p>I 授業改善に関する行動計画 ア 学校全体で取り組む授業改善に向けて ○管理職による授業改善 ○小学校教科担任制の実施 ○指導教諭・学力向上支援教員の活用 イ 習熟の程度に応じた指導の充実(補充指導の充実を含む) ○習熟度別指導推進教員の配置により、児童生徒の習熟の程度に応じて指導する。 ウ 司書教諭等を核とした学校図書館を活用した指導体制の確立 エ 市町村の教科部会を活用した授業改善に向けて(特に中学校) ○教育課程研究協議会による小・中学校教科部会の取組内容を管内各小・中学校への還流を図る ○豊肥・佐伯地区英語教育研究会の充実</p> <p>II 学びに向かう学校づくりに関する行動計画 学びに向かう学校づくりに関する行動計画 ～学びに向かう力と思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫～ ①「求められている学力」の共通理解と「思考力」「判断力」「表現力」を意識した授業改善 ②教育課程研究協議会教科部会作成による学力実態調査の実施と分析 ③低学力層の児童生徒への指導の充実 ④市教委作成「生活・学習TOP10」の周知・徹底・指導(※生活習慣(メディア利用)の改善を図るためのチラシの保護者配布) ⑤生徒指導・特別支援教育の充実～児童生徒が安心して生活できる学校・学級づくり</p> <p>III 保護者・地域と連携した学力向上の取組に関する行動計画 保護者・地域と連携した学力向上の取組に関する行動計画 ア 放課後や土曜日の教育環境の充実 → 土曜日等の教育活動の充実を図る体制の確立をめざす。(月1回の土曜授業の実施)</p> <p>IV その他 ア 協調学習(知識構成型ジグソー法)の「型」を取り入れることによって、共通の「型」を媒介として振り返り手掛かりができて校内研究の議論を深める。</p>	<p>①「県学力定着状況調査」「全国学力・学習状況調査」で県平均を超える学校数 小5: H27(5/12)→H28(10/12) 小6: H27(3/12)→H28(6/12) 中2: H27(3/6)→H28(6/6) 中3: H27(4/6)→H28(6/6)</p> <p>②生活習慣の陥没項目の改善 ・テレビ視聴 4時間以上 10%以上(小中ともに) ・学習時間 30分以下(小5%, 中3%)</p> <p>③協調学習(知識構成型ジグソー法)を取り入れた授業を実施する 教員100をめざすことにより、子どもたちにあきらめずしに答えたり説明したりする力がつき、B活用問題の記述式問題の正答率を全国平均+3.0にする ④校内研究を充実させ、授業改善を試みたという教員100%</p>	
	体力向上アクションプラン	<p>ア 児童・生徒の体力向上に係る目標 ・運動好きな児童、生徒の割合を男子80%、女子60%以上に ・運動、スポーツをほとんどしない児童、生徒の割合を現状から半減する ・体力、運動能力調査において全国平均以上である項目数を50%以上に イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための目標、一校一実践の組織的取組</p>	<p>ア 児童・生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校における行動 ・体育専科教員活用推進校によるモデルプランの提示や実践例の公開 ・ホームページでの各学校の取組の紹介 ・市町村教育委員会と【体力向上ST】の連携による学校毎の取組に対する指導・助言 ・「一校一実践」の推進、及び評価と工夫・改善(朝マラソン、自力登校、授業間体育など) ・中学校での「一校一実践」についても担当任せにせず、校内で組織的に取り組むよう指導する。</p> <p>イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市教育委員会や学校における行動 ・4月にメンバーの選任 ・年3回の連絡会議の開催 ・「体力向上ST」の具体的活用 ・教務主任会議への参加～「一校一実践」の紹介、情報交流 ・歯や口腔、食育に関するPTによる年間活動計画の策定</p>	<p>・運動好きな児童・生徒の割合を男子80%、女子60%以上に 【小 H26男子70.08%、女子61.6% → H27男子75.5%、女子63.1%】 【中 H26男子72.9%、女子36.9% → H27男子65.2%、女子37.0%】 ・運動・スポーツをほとんどしない児童の割合を現状から半減する 【小 H27男子3.7%、女子7.5%、中 H27 男子0.5%、女子7.7%】 ・体力・運動能力調査において、全国平均以上である項目数を50%以上に 【前年度達成項目数 小 42 / 96項目、中 13 / 48項目】</p>	
	不登校対策アクションプラン	<p>目標</p> <p>(不登校生徒数・出現率) ・小学校不登校児童出現率0%の継続 ・中学校不登校未然防止または早期対応による不登校出現率1%以下(市内総数4名以内)の実現</p>	<p>取組及び地域不登校防止推進教員の活用計画</p> <p>○取組 ＜計画・組織＞『不登校ゼロの地域づくり』『不登校ゼロの学校づくり』の推進 ＜未然防止＞未然防止の視点からの不登校対策の推進、小中連携の効果的な支援策の展開、中1ギャップの解消(T授業)、不登校対策の研修会を実施し、教員の意識と対応スキルの向上を図る ＜初期対応＞欠席初期対応の徹底(3日連続、7日連続欠席時の対応)、市内全学校の欠席把握と早期支援対応の取組強化、「あったかハート1・2・3」の徹底 ○地域不登校防止推進教員の活用計画(拠点校)竹田市立竹田中学校(在籍者130名)、目標値1人以上(出現率0.77%) ＜計画・組織＞「不登校対策計画」の作成、不登校対策委員会の活性化 ＜未然防止＞ソーシャルスキル等の研修の充実、安心できる学級づくり、特別活動の実践指導、生徒指導の三機能を意識した「分かる授業」の展開、校区内小学校との効果的な連携支援の推進 ＜初期対応＞不登校防止の初期対応の徹底 ＜学校復帰支援＞生徒の実態に応じた学校復帰の組織的な支援(教育委員会)市教育委員会での活動は週2日、拠点校での活動は週3日 ＜計画・組織＞市及び各学校の「不登校対策計画」作成の推進、市及び各学校の不登校対策組織の活性化の推進 ＜未然防止＞「絆」と「居場所」を意識した「魅力ある学校づくり」のサポート、研修会での講師、助言者としての活用、中学校との校区内小学校の連携推進 ＜初期対応＞市初期欠席対応システム構築の推進、「あったかハート1・2・3」の取組推進 ＜学校復帰支援＞教育支援センターや関係機関、SC等との効果的な連携の推進</p>		

平成28年度市町村教育委員会アクションプラン・計画等概要

(竹田教育事務所)

No, 2

市町村名	プラン・計画等	H28達成指標		
		目標	行動計画	
竹田市	組織力向上計画	<p>○学校評価の取り組み状況についての年3回の報告により確認、指導する</p> <p>○年3回の学校訪問と校長面談で進行管理を行う</p>	<p>ア 学校評価の改善</p> <p>○校長会議、教頭会議、教務主任会議、教育のまちTOP(SUN3)運動推進会議、学校訪問等により、以下の点を徹底する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喫緊課題と重点目標の一致</li> <li>・取組指標の具体化</li> <li>・重点、分掌、自己の目標の一層の連動</li> <li>・主任から教職員への各種指導</li> </ul> <p>○学力向上、体力向上、生徒指導(不登校やいじめ含む)、特別支援教育、独自施策のそれぞれのプロジェクトチーム、サポートチームを組織し、各校の取組状況を検証し、改善に向けての提言を行う</p> <p>イ 学校運営体制の充実</p> <p>○校長会議、教頭会議、教務主任会議、教育のまちTOP(SUN3)運動推進会議、学校訪問等により、以下の点を徹底する。・教職員評価システムの新制度定着に向け、円滑な実施を行う。・各種主任任務一層の明確化とやりがいあるミッションの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校での運営委員会と職員会議案件を整理し、情報共有を徹底する</li> <li>・主要主任から管理職への伝達機能の確立</li> <li>・校内研究の年間計画の検証、改善</li> </ul> <p>ウ 学校・家庭・地域の協同の推進</p> <p>○校長会議において、「目標協働達成」の取り組みの意義を押さえ、以下の点を指導する</p> <p>エ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度実施の土曜授業に対する、保護者、児童生徒のアンケート調査から明らかになった課題を市教委、学校で整理しそれを踏まえた年間活動計画を立案するよう指導する</li> <li>・市土曜授業検討委員会を学期末に開催し、評価と改善を行う</li> </ul>	<p>「個人の目標設定及び目標管理に主要主任が関わっている」学校を100%にする</p> <p>学校評価に基づく改善策に関する家庭、地域との協議の実施率</p> <p>小 学校30%以上</p> <p>中 学校15%以上</p>
	主幹教諭の活用計画	<p><b>活用内容</b></p> <p>○年3回の教務主任会議にて、自校の取組の報告を行う。</p> <p>○小学校に配置された主幹教諭は、竹田市学力向上プロジェクトチームに所属し、学力向上に向けた組織的學校づくりについて指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低迷する小学校の学力向上</li> <li>・女子の体力向上、運動好きの児童生徒</li> </ul> <p>○中学校に所属された主幹教諭は、竹田市生徒指導プロジェクトチームに所属し、生徒指導やいじめ、不登校防止等について指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障がい等の個性を持った子どもを含め、全員が安心して過ごせる学級をつくる特別支援教育の充実</li> </ul> <p>○以上のような取組を通して、自校及び竹田市全体の教育課題を見ることができるとともに、解決にむけてのマネジメント力を育成する。</p>		